

## 参考文献

- 1) Callesen H, Greve T and Christensen F. *Theriogenology* 27:217 (1987).
- 2) Pieterse MC, Kappen KA, Kruij ThAM and Taverne MAM. *Theriogenology* 30:751-762 (1988).
- 3) 今井 敬・富澤宗高・的場理子・小林修司・後藤祐司・奥地弘明・堂地 修・下平乙夫 哺乳動物卵子学会誌 Vol.12:S3(1995).
- 4) K. Imai, S. Kobayashi, Y. Goto, O. Dochi, I. Shimohira *Theriogenology* 47:347 (1997).
- 5) 小林修司・今井 敬・御澤弘靖・矢嶋 茂・信戸一利・田川真人・小島敏之, 第 15 回東日本家畜受精卵移植技術研究会大会講演要旨 p56-57 (2000).
- 6) 小林修司・今井 敬・堂地 修・高橋博人・小島敏之, 第 11 回東日本家畜受精卵移植技術研究会大会講演要旨 p40-41 (1996).
- 7) 小林修司・今井 敬・新納正之・後藤裕司・辻野堂士・小島敏之, 第 4 回日本胚移植研究会大会講演要旨集 p30 (1997).

## あとがき

OPU-IVF による胚生産はそのスケジュールを十分考慮することにより、連続過剰排卵処理によるものよりも効率的に胚を生産できる可能性があります。また、発生した胚盤胞の移植についても、新鮮胚移植においては体内受精由来胚と同等の受胎率を期待できます。しかし、その OPU 技術でも手技についてのマニュアルは今までほとんど公表されてきていませんでした。

本マニュアルでは、超音波画像と卵巣の操作法についてイラストを用いてわかりやすく説明しました。これらは全て基礎の段階の技術ですが、本マニュアルがこれから牛体外受精を実施されようとする技術者の参考となり、今後、ますます技術開発が進むであろうこの技術の発展に少しでも寄与することができれば幸いです。

マニュアル執筆者 家畜改良センター技術部技術第一課 小林修司

日本の畜産 改良と技術で育てます



執筆者 小林 修司 (技術部技術第一課)

---

家畜改良センター技術マニュアル19

ウシ生体卵子吸引・体外受精技術マニュアル

発行/独立行政法人家畜改良センター

〒961-8511 福島県西白河郡西郷村大字小田倉字小田倉原1

TEL : 0248-25-2231 (代表) FAX : 0248-25-3990

[http:// www.nlbc.go.jp](http://www.nlbc.go.jp)

発行日/平成19年3月

第4版/平成26年10月

---